事　業　報　告　書

２０１３年度

自　２０１２年7月１日　　至　２０１３年6月３０日

公益財団法人プラン・ジャパン

プランの目標（VISION）

人々の権利と尊厳が守られ、すべての子どもが能力を最大限に発揮できる世界を実現する

プランの使命（MISSION）

1. 子ども、家族、地域の人々が、人間としての基本的な生活条件を備え、社会活動に参加し、自立を達成できるよう支援する
2. 異なる国籍や文化を持つ人々の相互理解を深め、皆が協力できる関係を築く
3. 世界中の子どもたちの権利と利益の確立を図る

プランの活動方針（2003-2013）

1. 子どもたちとともに途上国の地域開発を進める
2. 貧困に苦しむ子どもたちを長期にわたり支援する
3. できるかぎり多くの子どもを支援する
4. 「子どもの権利」を守るため、世界中の人々をつなげる
5. 問題解決に向けて、政府や関連機関と協力・連携する
6. 子どもたちの声を発信する

プランの活動分野

1. 教育
2. 保健
3. 性と生殖に関する健康と権利
4. 水と衛生
5. 家計の安定
6. 子どもの参加
7. 子どもの保護
8. 緊急支援

2013 年度概要

2013 年度は、途上国の女性・女の子を取り巻く厳しい環境の改善をテーマとする“Because I am a Girl”（以下、BIAAG）キャンペーンを年度初から展開し、プラン・ジャパンの認知、共感と参加の拡大に邁進した 1 年となった。

事業面では、年度前半に 2013～2015 年度中期事業計画を策定し、①より戦略的、積極的なファンドレイジング、②より多くの認知と参加をもたらすコミュニケーション、③よりフォーカスした、質の高いプログラム、④組織力の強化、の 4 つの戦略目標のもと、共通テーマとして BIAAG キャンペーンを強化し、10 月 11 日の国際ガールズ･デー後も継続してメッセージを発信し続けた 1 年となった。キャンペーンを通じて新たな賛同者・支援者を得て、中長期的な成長に繋がる認知拡大の手ごたえを実感。同時に、必要性と効果の高いプロジェクトの形成や、職員派遣を伴う複数年次案件や緊急支援案件への対応力の強化など支援の質のさらなる向上を図り、成果の実感を高める情報発信、支援者コミュニケーションの工夫にも力を注いだ年でもあった。プラン・インターナショナル（以下、PII）の一員としては、今後の支援の方向性、ブランド確立などの重要な討議に参画、貢献したほか、世界規模のアクション「Raise Your Hand ～世界の女の子のために手を上げよう！～」（以下、RYH）の輪を広げ、ジェンダー主流化※1 の取り組みを強化するなどの連携を深めた。

しかしながら財務面では、中期事業計画にもとづく施策強化を反映して、期初予算から上方修正した第 1 次補正予算を 2012 年 12 月に組み、支援者の更なる拡大のための施策を実行したが、プロジェクト特定寄付金、プラン・スポンサーシップが目標に届かない見込みとなり、2013 年 4 月に第 2 次補正予算を策定するに至ったことは反省すべき点といえる。最終的な当期収入※2 は 3,024,874 千円（当初予算比 97.0%、第 1 次補正予算比 94.9%、第 2 次補正予算比 99.9%）となった。当期支出は 3,011,337 千円であり、その内訳は、事業費が 2,909,116 千円（うち公益目的事業 1:2,891,271 千円､同 2:17,845 千円)､管理費が 102,221 千円で､公益目的事業費率は 96.6%。継続支援者は、期末現在でスポンサー数が 39,937 名、マンスリー・サポーター数が 16,101 名といずれも前年度末比減となったが、2013 年度より募集を開始した Girl’s Project※3 継続支援者数は 1,685 名に達した。

受取形態別　正味財産増減　（単位：千円）

	ｽﾎﾟﾝｻｰｼｯﾌﾟ寄付金	ﾏﾝｽﾘｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰ寄付金	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ特定寄付金	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ無特定寄付金	受取ﾒﾓﾘｱﾙ・ﾌｧﾝﾄﾞ、ﾒﾓﾘｱﾙ・ﾌｧﾝﾄﾞ利息収益	事業収益、受取補助金等	その他（基本財産受取利息､受取利息､雑収益）	計
当期収入（a）	2,102,342	381,417	280,344	85,531	1,164	169,579	4,497	3,024,874
当期事業費（b）	1,954,349	368,617	265,652	87,607	58,815	169,579	4,497	2,909,116
公益目的事業1	1,936,504	368,617	265,652	87,607	58,815	169,579	4,497	2,891,271
ﾌﾟﾗﾝ･ｽﾎﾟﾝｻｰｼｯﾌﾟ	1,936,504	0	0	0	0	0	772	1,937,276
ﾌﾟﾗﾝ･ﾏﾝｽﾘｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰ	0	359,814	0	0	0	0	0	359,814
ﾌﾟﾗﾝ･特別ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	0	0	194,471	9,825	4,857	0	0	209,153
ﾌﾟﾗﾝ･一般ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	0	8,803	56,748	48,737	20,158	0	0	134,446
緊急・復興支援	0	0	14,433	0	10,124	0	0	24,557
公的資金等	0	0	0	29,045	23,676	169,579	3,725	226,025
公益目的事業2	17,845	0	0	0	0	0	0	17,845
当期管理費（c）	69,046	13,706	9,897	7,466	2,106	0	0	102,221
固定資産売却損(益)･評価損(益)、特定資産評価損(益)（d）	△ 544	0	0	13,440	1,734	0	0	14,630
当期正味財産の増減（a-b-c-d）	79,491	△ 906	4,795	△ 22,982	△ 61,491	0	0	△ 1,093

※1 ジェンダー主流化：ジェンダーとは社会的性別のこと。男性らしさ、女性らしさのイメージから社会的・文化的に作られた性別であり、育ちの中で刷り込まれる男女の固定的な役割分担や関係性など、社会や人々の意識に浸透している一方で、時代と共に変わるものでもある。ジェンダー主流化は、ジェンダー平等社会を目指してあらゆることにジェンダーの視点を入れていくことを意味する。

※2 当期収入：正味財産増減計算書の指定正味財産増減の部の基本財産運用益、受取寄付金および特定資産運用益、受取補助金等と、一般正味財産増減の部の事業収益および雑収益の合計

※3 Girl’s Project：貧困の中で、社会的、経済的に、より困難に直面している女の子たちの問題を解決するためのプロジェクト

事業報告

本財団の目的を達成するため、PII と連携・協力しつつ、公益目的事業 1、2 とも BIAAG キャンペーンを軸とする中期事業計画にもとづく施策の充実・強化に取り組んだ。結果として、中長期的な成長に繋がる認知拡大の手ごたえを実感することができたが、収入面ではスキームによって目標に届かないものもあり、第 2 次補正予算を作成するに至った。

Ⅰ．公益目的事業１

１．プラン・スポンサーシップ

PII の加盟支援国 20 カ国による共同事業として、50 カ国を対象に教育・保健・水と衛生など 8 つの活動分野を中心とする課題に総合的に取り組む地域開発プロジェクトを実施。同時に、日本国内のプラン・スポンサーシップ支援者（スポンサー）と、活動国の住民・子どもたち（チャイルド）との豊かな交流と相互理解の向上を図る。

今年度末時点におけるスポンサー数は 39,937 名で、日本のスポンサーと交流するチャイルド数は 43,361 名。その内訳は以下の通り、アジア 39.1%、中南米 22.2%、アフリカ 39.1%となった。

日本のスポンサーと交流するチャイルド 43,361 名の内訳（2013 年 6 月 30 日現在）

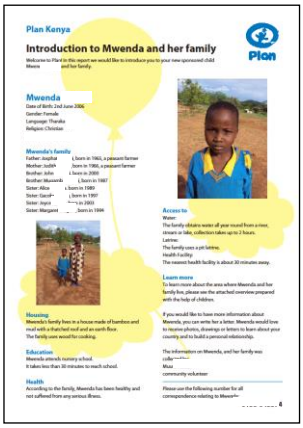
アジア	インド	2,030	中南米	エクアドル	1,337	アフリカ	ウガンダ	1,135	トーゴ	908
	インドネシア	1,099		エルサルバドル	982		エジプト	1,427	ニジェール	268
	カンボジア	1,060		グアテマラ	931		エチオピア	722	ブルキナファソ	1,528
	スリランカ	1,030		コロンビア	901		ガーナ	736	ベナン	322
	タイ	686		ドミニカ共和国	597		カメルーン	485	マラウィ	665
	中国	1,187		ニカラグア	685		ギニア	826	マリ	925
	ネパール	2,042		ハイチ	210		ギニアビサウ	247	南スーダン	29
	パキスタン	1,175		パラグアイ	620		ケニア	2,022	モザンビーク	51
	バングラデシュ	2,160		ブラジル	226		ザンビア	425	リベリア	0
	東ティモール	38		ペルー	733		シエラレオネ	138	ルワンダ	58
	フィリピン	1,665		ボリビア	1,192		ジンバブエ	1,297		
	ベトナム	2,525		ホンジュラス	1,030		スーダン	455		
	ミャンマー	0					セネガル	1,460		
	ラオス	254					タンザニア	837		
アジア計： 16,951			中南米計： 9,444			アフリカ計： 16,966				

プラン・スポンサーシップによる活動成果やチャイルドの成長を伝える報告、交流などの実績は以下の通り。

○チャイルドから届いた「1 年の歩み」（地域の活動成果とチャイルドの成長記録）：33,507 通
○チャイルドから届いた手紙：32,002 通
○スポンサーから送られた手紙等：24,355 通
　うち、年末「カレンダーキャンペーン」参加数 10,439 件
○翻訳：ボランティア 762 名（2013 年 6 月 25 日現在）、全通信物の翻訳割合：約 6 割
○コミュニティ訪問：36 件（62 名）、プロジェクト訪問：3 件（3 名）

今年度は、国際組織として報告文書等作成のシステム変更を行った影響により「1 年の歩み」の作成数が前年度より少なかったこと、交流促進のキャンペーンを年 1 回としたことなどにより、

双方向の手紙等の通信物総数は前年度より減ったが、ウェブサイトを利用してスポンサーの利便性を高める施策を実施。チャイルドへの手紙の郵送に便利な「宛名ラベル」がダウンロードできるサービスを開始したほか、2013 年 4 月には、毎年期間限定で好評実施していた「写真を送ろう」企画をウェブサイト常設にしていつでも写真入カードを簡単に送付できる仕組みをつくり、オリジナル便箋もリニューアルした。また、カレンダーキャンペーン期間中の休日には電話受付を行い、スポンサーとの直接対話の機会を作るなど、心の通う交流を心がけた。
さらに、プラン・スポンサーシップの楽しさをより積極的に伝えるために、交流開始時にお届けする紹介資料、毎年の成長記録などのデザイン改良や送付時メッセージの工夫、長崎県の支援者の方々との協働によるコミュニティ訪問紹介イベントの開催などの新しい企画を次々に実行した。また、交流を支える在宅翻訳ボランティアがより利用しやすいように、翻訳に関する情報を得る専用ウェブサイトの体裁を一新した。


Plan Kenya

Introduction to Mwenda and her family

Plan

Mwenda

Mwenda's family

Access to

Housing

Education

Health

Learn more

新しいデザインの
チャイルド紹介資料

プラン・スポンサーシップでは、チャイルドの成長と、様々なプロジェクトの実施を通じてチャイルドが住む地域が改善されていく様子を「1 年の歩み」と題した報告書でスポンサーに伝えており、その意味では、スポンサーが受け取る支援の成果の報告は、一人ひとり異なっている。本報告書では、住民たちにより作成される活動成果の報告の中から、以下 3 件を今年度のプロジェクト事例として紹介する。

プロジェクト事例：


学校の新しい給水設備の水を享受する子どもたち

水と衛生プロジェクト

対象地域：フィリピン（マスバテサウス、マスバテセントラル、オクシデンタルミンドロ、サザンレイテ、サマールウエスト、サマールイースト）
今年度の活動では、給水設備 4 つ、手動ポンプ 7 基、管井戸 5 基を建設し、雨水貯水器 2 つを設置、66 の濾過装置を支給して、1,000 世帯以上が安全な水を得られるようになった。
10 月 15 日の「世界手洗いの日」には、地域の学校を中心に、手洗いと衛生の重要性を広める活動を実施。サマールイーストとサマールウエストの活動地域では「屋外排泄ゼロの村」を達成できたとして、政府から証明書が授与された。


自動車整備コースに参加した少女

若者対象の職業訓練プロジェクト

対象地域：ウガンダ（トロロ、カムリ、ルウェロ、リラ）
若者（特に学校中退者）の雇用機会が限られている現実を前に、生計手段が見つからない若者がストリートをうろついたり、早すぎる結婚・妊娠をするといった傾向が強いことから、彼らの経済的自立を助けるために、各種の職業訓練を実施。今年度は、計 523 名の男女が、導入ガイダンスの後に、それぞれの関心に応じて、仕立て、理髪、ケータリング、自動車整備、電気技師、配管、溶接、レンガ工等の訓練コースを受講。修了者には、自営を開始できるよう必要な工具・器具を支給した。


保育所で遊びを通じて学ぶ子どもたち

乳幼児教育プロジェクト

対象地域：ドミニカ共和国（アスア、サン・ファン、バラオナ）
子どもにとって、生まれてからの 5 年間は、身体、感情、社会的発育・発達に非常に重要な時期であることから、プラン・ドミニカ共和国では乳幼児教育に力を入れている。今年度は 0 から 5 歳児を対象とした保育所の設置により、約 2,300 名以上の子どもが早期教育の機会を得た。また、約 2,000 名の親たちに、子どもの健康管理、病気予防・手当て、知育、子どもの権利などをテーマとした訓練を行った。

２．　プラン・マンスリー・サポーター

世界的な気候変動の社会的弱者への影響に取り組むため、今年度から「自然災害への対応」を追加し、「取り残された人々」への支援に取り組む本スキームの対応能力を強化。防災戦略の優先課題であるアセアン 8 カ国での「災害に強い学校イニシアチブ」推進を決定したプラン・アジア地域統括事務所（Asia Regional Office，以下、ARO）とパートナー団体の動きに本財団も賛同し、支援カテゴリーの「紛争に巻き込まれた子どもたち」を、「紛争や災害に巻き込まれる子どもたち」に変更して、具体的なプロジェクト支援を開始した。

同支援も含めて、今年度は、本財団が設定した 5 つのカテゴリーのもと、下表の 19 カ国 21 プロジェクトを実施。うち、新規支援開始は 5 件（下表中※1）、支援終了は 4 件（同※2）。なお、複数年次プロジェクトの進捗上、支援終了案件を含む 4 件（同※3）は今年度中の事業費送金を必要としなかったため、支出実績は計 15 カ国 17 プロジェクトである。

実施事業のモニタリングでは、2012 年 9～10 月にはエジプトの「ストリート・チルドレンプロジェクト」を訪問。施設での生活と職業訓練の様子を視察し、子どもたちや関係者の声を聞き進捗と成果を確認すると同時に、同地で行われた障がい者支援対策会議に参加して学びを持ち帰り、本財団内で共有、知識の向上と業務への活用につなげた。2012 年 10～11 月にはスリランカで「家庭・学校・地域での暴力防止プロジェクト」を訪問。虐待を受けて保護された子どもの生活施設でのヒアリングなどの後、保護活動を推進する警察署で関係者協議を行った。また、この機会に ARO 所属の子どもの保護問題専門家、プラン・スリランカ職員と協力して「子どもの保護とケア及び地域社会への復帰支援プロジェクト」の活動計画を作成。本プロジェクトは、紛争に巻き込まれた子ども対策のアジアモデルとして育てることとなり、今後、大きな期待が寄せられている。

カテゴリー	対象国	プロジェクト名	事業費（千円）
ストリート・チルドレンと働く子どもたち（5 カ国 5 プロジェクト）	ネパール	働く子どもたち	61,376
	パキスタン	家事使用人として働く女の子への教育・就業支援	
	バングラデシュ	ストリート・チルドレン	
	エジプト	ストリート・チルドレン	
	エクアドル	働く子どもたち	
障がいのある子どもたち（3 カ国 3 プロジェクト）	インド	障がいのある子どもたち	80,195
	トーゴ	障がいのある子どもの支援体制づくり	
	グアテマラ※1	障がいのある子どもたちの支援体制づくり	
紛争や災害に巻き込まれる子どもたち（7 カ国 5 プロジェクト）	ミャンマー/ベトナム/タイ（ARO）※1	アセアン「災害に強い学校」イニシアチブ	98,169
	スリランカ※1	子どもの保護とケア及び地域社会への復帰支援	
	南スーダン※1	若者への就職・起業支援	
	シエラレオネ※2※3	内戦後の教育復興	
	スーダン※2※3	国内避難民への保健医療サービスの提供と衛生環境の整備	
HIV とエイズに苦しむ子どもたち（4 カ国 4 プロジェクト）	インド	子どもと女性を中心とした HIV 予防とケア	68,771
	カメルーン※1	子どもと女性を中心とした HIV 予防とケア	
	モザンビーク※2	エイズ孤児の保護とケア	
	ハイチ※3	HIV とともに生きる女性への小規模金融	

虐待される子どもたち（4カ国4プロジェクト）	スリランカ	家庭・学校・地域での暴力防止	51,303
	バングラデシュ※2	子どもの虐待防止	
	ブルキナファソ※3	子どもの人身売買防止	
	カメルーン	弱い立場にある子どもの支援と保護	
合計		19カ国21プロジェクト	359,814

プロジェクト事例：



学用品の支給を受けた子どもたち

エイズ孤児の保護とケアプロジェクト

対象地域：モザンビーク（南東部イニャンバネ州ジャンガモ地区）
当期事業費支出額：470千円
4年間にわたる支援が今年度で終了。プロジェクトでは、地域ボランティア、リーダーによる子どもの保護委員会の能力強化（222名）、啓発キャンペーンの実施、健康フェアでのHIV検査実施（805名）、支援グループによるHIVとともに生きる子どもとその家族の健康相談（418名）やエイズ治療継続促進の支援、貧困世帯のエイズ孤児への学用品等支給（2,000名）、エイズ孤児ケアに当たる女性グループの起業支援（30名以上）などを行った。地域では、HIVとともに生きる子どもたちやエイズ孤児らへの差別や偏見、虐待が減り、虐待があれば自分たちで解決できるようになった。また、エイズ孤児たちの退学率低下、起業した女性たちの収入増加も見られ始めている。

3．プラン特別プロジェクト

今年度は、支援者の要望と活動国のニーズの合致に注力しながら、下表の20カ国58プロジェクトを実施。昨年度より形成にあたっていたインドにおける環境教育プロジェクトでは、オリジナル教材を開発する新たなプロジェクトを実現。また、インドで活動する他NGOの巡回医療プロジェクト視察に同行し、他団体の活動からも学んだ。2012年10月には「3人で支援する特別プロジェクト（学校建設）」を企画し、新たな支援者層開拓につなげた。BIAAGキャンペーンとの連携では、バングラデシュにおける女性を対象とした縫製などの職業訓練プロジェクトを実施。2012年11月、2013年3月には企業説明会を開催して、支援企業担当者による発表も交え、企業の参考となる情報発信を試みた。

実施事業のモニタリングでは、2012年10～11月にインドで「巡回医療プロジェクト」に関する意見交換と現場視察、「環境教育プロジェクト」の現場視察を実施。2013年2月に訪れたガーナでは、「学校建設プロジェクト」追加支援現場と「教育支援プロジェクト」対象校を視察したほか、「就学前教育支援プロジェクト」に関する事前打ち合わせと同種プロジェクトの進捗確認、「簡易保健所建設プロジェクト」の進捗確認を行った。

分野	対象国・プロジェクト数	事業費（千円）
教育	15カ国（40プロジェクト）：　インドネシア、カンボジア、スリランカ、インド、ネパール、フィリピン、タイ、ベトナム、ブルキナファソ、エチオピア、ガーナ、マリ、タンザニア、エクアドル、グアテマラ	121,575
保健	5か国（9プロジェクト）：　ネパール、フィリピン、カメルーン、ガーナ、タンザニア	54,233
水と衛生	6カ国（6プロジェクト）：　バングラデシュ、インド、ネパール、ミャンマー、モザンビーク、トーゴ	22,772
その他（職業訓練、環境、緊急支援）	3カ国（3プロジェクト）：　バングラデシュ、インド、マリ	10,573
合計	20カ国58プロジェクト	209,153

プロジェクト事例：



環境教育教材を手にする子どもたち

環境教育プロジェクト

対象地域： インド（アンドラ・プラデシュ州ヴィサカパトナム県）
当期事業費支出額：2,166 千円
環境教育教材を用いて 24 校の生徒および 24 村の人々の意識啓発を図るとともに、対象校の衛生設備の改善、地域の環境保全と緑化を推進し、子どもたちの意見も反映したオリジナル環境教育教材も開発する 4 年間プロジェクト。初年度にあたる今年度は 8 校・8 村で、「子どもエコクラブ」と「環境保護委員会」の設立と生徒 123 名と大人 139 名への環境教育トレーニングを実施し、環境教育の推進体制を整備。また、4 校でのトイレの建設･改修を通じ、生徒 666 名と教師 26 名が通う学校の衛生環境を改善。生徒と大人計 263 名にトイレの維持管理方法を説明し、衛生的な環境の維持体制構築を促進した。

４． プラン一般プロジェクト

今年度は、震災の影響を考慮して支援件数を少なくした昨年度に比べて支援件数を増やし、活動地域のニーズを踏まえて、下表の 10 カ国 10 プロジェクトを実施。そのなかで、BIAAG キャンペーンの対象として、ベナンとベトナムの女の子のエンパワーメント※1 を目的としたプロジェクトを手がけ、きめ細かな情報提供にも努めた。
実施事業の具体的なモニタリングでは、2012 年 11 月から 2013 年 5 月にかけて下表※印の 5 件に出張し直接に事業の視察、受益者ヒアリングを行ったほか、建設案件の進捗確認、支援対象施設や訓練の視察、プラン職員やパートナー団体との協議・調整などにあたり、適切な進捗管理を行うとともに、ウェブサイト上での報告を行った。

※1 女の子／女性のエンパワーメント：人生・日常生活において自分で選択・意思決定できる力、男性と対等に意思決定に参加できる力をつけること

対象国	プロジェクト名	事業費（千円）
インドネシア	小学校の教室建設　※	13,785
ブルキナファソ	中学校建設	13,059
ホンジュラス	老朽化した小学校の修繕	12,412
フィリピン	保健サービス向上	11,337
ザンビア	母子保健改善　※	13,184
カンボジア	安全な水の供給	10,018
エルサルバドル	衛生環境改善　※	13,692
ニジェール	穀物銀行支援	10,037
ベナン	養鶏による収入増加　※　【BIAAG 対象】	20,277
ベトナム	女性ならではの職業訓練　※　【BIAAG 対象】	16,645
合計	10 カ国 10 プロジェクト	134,446

プロジェクト事例：



鶏の支給を受ける少女

養鶏による収入増加プロジェクト

対象地域：ベナン（クッフォ県、アタコラ県）
当期事業費支出額：20,277 千円
今年度の BIAAG 対象プロジェクトのひとつとして、南部のクッフォ県と北部のアタコラ県において、経済的に厳しい家庭の、学校に通っていない 20 歳以下の女の子 150 名を対象に支援を実施。養鶏技術のトレーニング、鶏小屋の建設支援、鶏の支給、鶏の予防接種などを行い、女の子の収入増加支援を図った。

５． プラン・メモリアル・ファンド

55 本のメモリアル・ファンドより得た収益 58,815 千円（うち取り崩し収益 57,651 千円、利息収益 1,164 千円）を、以下 4 つのスキームによる 13 カ国 18 プロジェクトの一部に役立てた。

スキーム名	対象国・プロジェクト数	事業費（千円）
プラン一般プロジェクト	9 カ国（9 プロジェクト）： インドネシア、ブルキナファソ、ホンジュラス、フィリピン、ザンビア、カンボジア、エルサルバドル、ニジェール、ベナン	20,158
プラン特別プロジェクト	2 カ国（2 プロジェクト）： バングラデシュ、ガーナ	4,857
緊急・復興支援	1 カ国（1 プロジェクト）： フィリピン	10,124
公的資金など	4 カ国（6 プロジェクト）： ベトナム、フィリピン、ニジェール、グアテマラ	23,676
合計	13 カ国 18 プロジェクト	58,815

６． 緊急・復興支援

今年度は、PII 加盟支援国 20 カ国の共同事業として実施された複数の緊急・復興支援のうち、下表の 5 カ国 3 プロジェクトの支援に参加。支援内容は各被災地の状況に応じて、必要物資支給、仮設施設の提供・運営、子どもたちの心のケア、被災者自立支援、現金支給など多岐にわたった。本財団の対応力強化に向けて、2012 年 11 月には、タイで開催された「災害危機管理対策ネットワーク会議」に職員を派遣。本テーマに関する最新の情報を収集して本財団内で共有し、知識の向上を図った。また、今年度は、PII 加盟支援国 10 カ国による「災害危機管理対策グループ」が結成され、限られた資金や人材を適時に、効率的に災害対策に投入するための体制整備が始まった。本財団も同グループに賛同・協力しており、プラン・マンスリー・サポーターの項で記載したアセアン地域における災害に強い学校づくりへの支援開始も、その一環である。

対象国	プロジェクト名【寄付募集期間】	事業費（千円）
バングラデシュ	洪水緊急復興支援 【2012/7】	924
スーダン/ニジェール/マリ	アフリカ 3 カ国洪水緊急支援 【2012/8-11】	8,162
フィリピン	台風ボーファ緊急復興支援 【2012/12-2013/3】	15,471
合計	5 カ国 3 プロジェクト	24,557

プロジェクト事例：



現金支給の順番を待つ被災者たち

洪水緊急復興支援プロジェクト

対象地域：バングラデシュ（北西部クリグラム県・ガイバンダ県、南東部コックスバザール県の計 7 地域）

当期事業費支出額：924 千円

雨季の豪雨により北西部、南東部の計 29 県で河川の氾濫や浸水、土砂災害が発生し、住民約 200 万名の生活に支障をきたした。国際 NGO として最初に被災地域に入ったプランは、輸送が困難な支援物資の到着を待つより、被災地で再開された市場で各自が必要物資を手に入れる方が迅速かつ効果的であることに着目し、極貧世帯、女性世帯主世帯、授乳婦・お年寄り・障がい者がいる世帯などのうち、最も被害が深刻な 7,000 世帯（約 35,000 名）を対象に、1 世帯当たり約 5,000 円の現金を支給する手法を選択。重複や不正を避ける事前クーポン配布、政府・警察・メディアなどの立会いによる現金支給、適切な使用を確認するための受益者宅訪問などを通じて徹底的な透明性確保のもとに行った支援は、被災者の速やかな生活再建に大きく貢献した。

７． 公的資金など

活動地域のニーズを踏まえて、これまで申請をしたことのない国際機関を含む国内外の官民資金の獲得の道を探り、PII 内他事務所との連携を強めて案件を形成、職員採用・局内での海外派遣人材登録制度策定などによる体制整備にも努めた。結果として、昨年度からの継続案件（世界銀行案件）に加えて、東日本大震災支援対応のために控えていた日本 NGO 連携無償資金協力新規申請を復活、ジャパン・プラットフォームによる緊急人道支援 3 件など、下表のとおり 5 つの交付元から 5 カ国 8 プロジェクトへの支援を獲得し、昨年度に比べ大幅に収入を伸ばした。短期・長期の職員派遣を伴う案件の増加はもとより、グアテマラにおける「少数民族の栄養改善、食糧の安定供給事業」は PII として初の米州開発銀行資金獲得となるなど、具体的な成果を発揮し始めた 1 年となった。

交付元	プロジェクト概要	事業費（千円）
外務省 （①日本 NGO 連携無償資金協力、②草の根・人間の安全保障無償資金協力）	① <u>少数民族の初等教育改善事業第１期</u>  対象国：ベトナム（2012/12-2013/12） 北部ハザン省、中部クアンビン省、クアンガイ省の 3 省において、より安全に、質の高い内容の教育が受けられる小学校のインフラ整備と教師の能力強化を実施。少数民族の子どもたちの公用語習得支援に向けた参加型の教師トレーニングを行い、日本から教育専門家を年 2 回派遣して教師間の学びあいの継続実施と定着に貢献した。 ② <u>小学校　教室施設修繕事業</u> 対象国：グアテマラ（2013/6-2014/5） バハ・ベラバス県クブルコ、グラナド、エル・チョルの 3 市 11 村にある 12 の小学校（生徒計 1,200 名）を対象とする教室建設、学校トイレ建設、給水設備の設置、教室の屋根修繕などを開始。子どもと保護者への衛生指導を通じて、地域の衛生環境改善も進めている。	① 67,616 ② 10,274
ジャパン・プラットフォーム（緊急人道支援）	① <u>緊急食糧支援事業</u> 対象国：ニジェール（2012/7-8） 長引く干ばつで食糧不足が深刻となっていたティラベリ州のティラベリ、シンデルの 2 地区 32 村で約 4,000 世帯（28, 000 名）を対象に主食となる穀物 100 キロを支給。 ② <u>台風ワシ被災者支援事業</u>  対象国：フィリピン（2012/8-9） 2012 年 1 月に台風ワシに襲われたミンダナオ島で、復旧が遅れ劣悪になっていた衛生状況を改善するため、政治不安定下で特に支援が不足していたイスラム自治地域ラナオ・デル・ソル州の 8 小学校・4 幼稚園（生徒約 2,400 名）を拠点として、衛生用品支給と衛生教育を実施。 ③ <u>地震被災者支援事業</u>  対象国：グアテマラ（2012/12-2013/1） 2012 年 11 月に発生した地震で住む家や家財を失った、ケツェルテナンゴ県、サン・マルコス県の約 1,500 世帯に対し、食糧と衛生・生活用品、防寒用品を支給。各避難所には、がれきの撤去や清掃に使う用具を支給し、家屋修繕の見通しが立たず避難所で生活する被災者には、心理士と連携して心理ケアサービスを行った。	① 23,690 ② 3,374 ③ 13,535

米州開発銀行（日本特別基金）	**少数民族の栄養改善、食糧の安定供給事業** 対象国：グアテマラ（2013/4-2017/3） バハ・ベラパス県の 5 市 77 村において、約 2,000 世帯を対象に、栄養補助食の支給、栄養教育などを通じた子どもをはじめとする住民の栄養状態改善とともに、保護者への農業、養鶏の生産指導、家庭菜園の奨励、種子銀行の設置による自立的な食糧の安定供給を目指す支援を開始した。	26,176
世界銀行（日本社会開発基金）	**地域住民の栄養改善事業** 対象国：ベナン（2011/7-2015/6） ベナン全国の活動地域に暮らす女性（母親、祖母ら）約 96,000 名を保健の担い手として育成し、コミュニティ全体の栄養状態を改善する事業を継続している。今年度は、子どもの成長測定、食事の栄養指導、母子への予防接種、学校給食など多岐にわたる活動を全国規模で実施した。 	78,685
味の素（「食と健康」国際協力支援プログラム）	**少数民族地域における子どもの栄養改善事業** 対象国：ベトナム（2013/4-2016/3） 中部クアンガイ省において子どもの栄養状態を改善する事業を開始した。栄養不良の 5 歳未満児を特定し、継続的に栄養補助食品を支給するため、地域でのトレーニングを通じて養成する保健促進員が中心となって、保護者の栄養知識向上を目的とした家庭訪問や講習会を計画、準備を進めた。	2,675
合計	5 カ国 8 プロジェクト	226,025

※上表の事業費には自己負担分の費用も含む

８．　公益目的事業１共通の主な取組み

1）ファンドレイジング



数多くの反響を得た BIAAG の広告

- 年度初端に BIAAG キャンペーン本格展開を開始し、2012 年 10 月 11 日の国際ガールズ・デーにかけて、キャンペーンの初期認知獲得および拡大、共感層の創出、想いの共有拡散を目指した。春からは本キャンペーンの展開をさらに強化し、Girl's Project 継続支援を含む途上国の女の子の問題を解決するプロジェクトを中心に、新たな層からの寄付獲得を加速させた。
- 各自のアイディアで楽しみながらファンドレイジング活動をするボランティア「BIAAG サポーター」を募集。サポーターによるフリーマーケットへの出店やチャリティパーティーの開催、店頭での募金箱設置等が行われた。サポーターは非支援者が既存支援者を上回り、単に寄付をするだけでなく自らアクションを起すことに関心ある層の広がりを実感した。
- 5 月の「子どもの日」にあわせて TOKYO FM 主催で開催する恒例の共同企画では、チャリティーライブ「Because I am a Girl LIVE」を開催。同日に東京・大阪で特別番組放送も行い、来場者・視聴者に BIAAG キャンペーンへの理解・賛同を直接訴えた。
- 企業連携の取り組みでは、特別プロジェクト支援以外にも、BIAAG キャンペーンの本格展開を受けて徐々に問合せが多くなり、趣旨に賛同した各社独自の寄付付商品販売による寄付が寄せられる例が増加した。また、企業向けセミナー等で登壇の機会をいただき、NGO との連携促進に向けた情報発信に努めた。

2) アカウンタビリティ（説明責任）と透明性の向上

- 支援に関するアカウンタビリティと透明性を高めるために、進行中の事業については現地事務所と連絡をより一層密にとり、確実な進捗・資金管理を行いつつ、メールマガジンやウェブサイトでの進捗報告の回数を昨年度よりも増やすなどの姿勢を常に心がけた。また、複数年次プロジェクトのモニタリングの機会では、特に事業が終了した案件の最終評価報告書の精査を強化して、プロジェクトを通じて得た学びを次の案件形成に活かす助言を行い、活動の質的向上を図るよう努めた。
- 支援をより身近に感じていただくことを目指し、支援者の一部を対象にアンケートを行ったほか、活動地域のプロジェクト参加者の声や出来事をお伝えするグリーティングカードを新たに制作、発送した。



グリーティングカード例

- 各種報告や支援に関する情報発信では、プランの“今”やプランの活動の成果が見える内容を心がけ、質と量、両面の向上を目指した。機関誌「プラン・ニュース」(10 月号 : 59, 600 部、4 月号 : 58, 700 部、7 月号 : 59, 300 部）はページ増加、年次報告書（2013 年 1 月 : 59, 200 部）は国際組織全体としての注力や動きも含めてより伝わるように紙面を刷新、プラン・マンスリー・サポーター報告書（2012 年 10 月 : 15, 200 部、2013 年 4 月 : 15, 500 部）、そのほか、プラン一般プロジェクト＆緊急・復興支援報告書（2011 年 10 月 : 7, 100 部）、を発行し、本財団ウェブサイトに掲載。また、ウェブサイトの更新頻度を上げ、メールマガジン（PC、携帯電話）は 2012 年 7～9 月は毎月 1 日配信、同 10 月以降は月 2 回配信として情報量を増やし、定時・臨時をあわせた総配信数は PC 596, 735 件、携帯 55, 142 件にのぼった。
- BIAAG キャンペーンを受けて、PII 作成による「世界ガールズ白書 (The State of the World’s Girls)」2007～2012 年版の要約、および「ジェンダー平等に関するプランの方針（Plan’s Policy on Gender Equality)」の日本語版を作成。いずれもウェブサイトで広く一般に公開し、キャンペーンの根拠を裏打ちする情報の充実に努めた。
- 2013 年 5 月 26 日～6 月 2 日にかけて、BIAAG プロジェクト視察を中心とするスタディツアーを企画し、一般も含めて募集の結果、参加者 18 名でベトナムのハノイ、フートー、クアンビンの活動地域を訪問。ハノイでは本財団の BIAAG キャンペーン対象である職業訓練プロジェクト、フートーでは学校と診療所を視察し、クアンビンでは少数民族地域の女性グループによる貯蓄と貸付グループの会議と子どもの日フェスティバルに参加したほか、各地で子どもたちを含む住民の声を聞き、交流を図り、支援の必要性と成果の実感につなげた。


ベトナムへのスタディツアー

- 国内各地の支援者による自主的な活動であるプラン支援者の会では、57 件の会合が開催され、うち 17 件に役職員を派遣して、活動報告を通じて信頼関係強化につなげた。またそのほか、今年度は 2 都市において本財団とプラン支援者の会による共催イベントを実施し、各会との連携を深めつつ、未支援者へ途上国支援の輪を広げる取り組みを行った。

Ⅱ．公益目的事業２

前年度までは東日本大震災が本財団の活動に大きな影響を与えたが、2012 年 7 月 1 日から広報、アドボカシー、開発教育でも BIAAG キャンペーンを前面に展開し、BIAAG を中心に、より大きく活動の輪を広げる足がかりを作った 1 年となった。特に 10 月 11 日の国際ガールズ・デーを契機

に、フェイスブックや各種イベントでの RYH などの双方向コミュニケーション、本財団独自や他 NGO や団体との連携による新しい活動など、より多くの人を巻き込むかたちが出来つつある。また、公益目的事業 2 の分野では、共同企画や情報・制作物の共有などの PII 内連携が活発化し始め、本財団もこれに積極的に参加しているところであり、今年度は以下のような活動を行った。

１．広報

1) 今年度は、PII として、手を上げた写真を集めて国際社会に働きかける参加型アクション RYH を世界規模で展開。本財団は 2013 年 10 月までに日本国内で 50,000 名の参加達成を目指し、あらゆる機会を捉えて RYH を呼びかけ、2013 年 6 月末現在で 43,178 名の参加を獲得した。

2) メディアとの関係においては、BIAAG キャンペーンの展開と国連制定後第 1 回目の「国際ガールズ・デー」を組み合わせて、2012 年 10 月 11 日の国際ガールズ・デーを露出のピークとし、問題意識の高いテーマ設定と、さまざまな機関、専門家、団体などと関係を広げながら展開する動きにより、メディアとの関係構築にも繋がった。また、手を上げるという手軽なアクションで途上国の女の子の問題解決への賛同の意思表示ができる RYH は、メディア関係者からも途上国問題を紹介しやすくなると好評を得た。





10 月 11 日の国際ガールズ・デーにあわせて開催した記念イベントでの RYH

3) 2013 年 4 月には、本財団の呼びかけで「国際ガールズ・デー推進ネットワーク」を発足。国連広報センターをはじめ、国際機関、NGO、教育機関、企業、ジャーナリストなど、2013 年 6 月末現在で参加者は約 20 にのぼり、国際ガールズ・デーを盛り上げる企画やムーブメント作りなどについて定期的に話し合いを重ねている。

4) BIAAG を軸に積極的に広報イベントに取り組み、以下 17 件に約 10,200 名の参加を得た。

開催日	イベント
2012/7/2-4	「世界防災閣僚会議 in 東北」サイドイベント（フォーラム、ブース出展、写真展示）
8/30	「吉元由美の LIFE ARTIST Knowledge Forum 女性だから考えよう！今の日本と世界！Because I am a Girl」（開催協力、職員登壇）
9/22	「スタディツアー報告会」（主催）
9/29	TBS「オールスター感謝祭」（ブース出展）
9/29	「サンフレッチェ広島と『なんとかしなきゃ』!!」（RYH）
10/5-6	「グローバル・フェスタ」（ブース出展、RYH）
10/8	「『国際ガールズ・デー』記念イベント Girl's Impact～ガールが世界を変える～」（共催、RYH）
10/13	「子ども支援フォーラム 震災後の子ども支援（その３）～地域の暮らしと文化に根ざした心の回復」（職員登壇）
11/10	「事務局オープンデー」（主催）
12/5	「『Because I am a Girl――わたしは女の子だから』出版記念 角田光代さん×増田明美さん トークショー」（共催、RYH）
12/8-9	「Raise Your Hand in 大阪」（主催、RYH）

2013/2/27	「悪魔よ地獄に帰れ」上映会（職員登壇）
3/1	ライブイベント「WOMEN IN JAZZ」（映像上映、展示、募金活動）
3/9	「心のケア支援フォーラム　被災者の心を支えるために～東日本大震災のこれまで、そして今後の災害に備えて～」（職員登壇）
4/20-21	「アースデイ東京 2013」（ブース出展、RYH）
5/11-12	「アフリカン・フェスタ」（ブース出展、RYH）
5/21・6/18	「BIAAG セミナー」（主催）

5） 東日本大震災支援の一環として発行に協力した「WHO 版心理的応急処置－現場の支援者のガイド」（略称：WHO 版 PFA）※1 の普及活動を継続。ケア宮城との連携により、心理学会や防災関係のセミナーで発信する機会が増え、日本国内で心理士、子ども支援や震災支援活動の専門家、現場関係者（行政、NGO/NPO、学童保育関係者等）の間で、着実に認知度と信頼感を高めることができた。

※1「WHO 版心理的応急処置－現場の支援者のガイド」: WHO（世界保健機構）が 2011 年に作成した災害時の「心のケア」マニュアルの日本語版。監修：国立精神・神経医療研究センター、翻訳協力：ケア・宮城、プラン・ジャパン

２．アドボカシー

本財団のアドボカシーへの取り組みの基本方針として打ち出したジェンダー、教育、子どもの保護を軸に、情報発信力を強化すると同時に、支援者、市民に支えられた影響力の強いメッセージで政策に影響を与えることのできるアドボカシーの実施・推進を目指した。アドボカシー分野は今後、グローバルレベルでの理解と連携の高まりのなかで、日本政府や他 NGO との連携がさらに進むことが考えられ、組織内での連携と体制の充実が次年度の課題となる。今年度中の主な活動は以下の通りである。

1） BIAAG キャンペーンに共感し、同キャンペーンやジェンダー平等について理解を深め、行動を起こして支援の輪を広げる人材を育成する「プラン・アカデミー」を企画。定員を大きく上回る応募が寄せられ、2013 年 4 月に、選考を通過した参加者による全 8 回の連続講座を開講。

2） 世界の女の子の教育とエンパワーメントのために、途上国の貧困問題の解決に取り組むネットワーク「動く→動かす」の STAND UP TAKE ACTION（スタンド・アップ キャンペーン）や、なんとかしなきゃ！プロジェクト等との連携・協働を通じて、RYH により多くの参加を獲得した。

3） 日本で大きな国際会議が活発に行われた機会を捉え、本財団と PII の主張を日本社会に広める機会として参加。2012 年 10 月 11 日の IMF・世界銀行年次総会では、「若者の非雇用問題」に関するフォーラムを実施。本財団専務理事、PII 国際本部副本部長、オランダとインドネシアから招聘したユース 2 名ほか、インドネシア政府、世界銀行、コンサルティング企業の代表者が登壇し、それぞれの活動紹介と、問題解決に向けたメッセージを発信した。第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）では、公式サイドイベントとして 2013 年 6 月 1 日にシンポジウム「アフリカの女子教育と教育協力における日本の役割」を開催した。


自らの起業経験と夢を語るインドネシアのユース

4） 教育協力 NGO ネットワーク（以下、JNNE）では引き続き「世界一大きな授業」の事務局を務め、JNNE と本財団との共催として力を入れ、教育に対する市民への意識啓発、政府への提言を行った。作成した教材では女子教育にも触れ、より多くの人に女子教育の重要性を知る機会を提供した。2013 年 4 月に全国で展開した授業の参加者は国

会議員 61 名を含め、2003 年開始以来過去最大となる 59,116 名にのぼり、参加者から寄せられた日本の教育支援の拡充を願うメッセージは、JNNE を通じて日本政府に届けられた。

5) 児童労働ネットワークが実施した「ストップ！児童労働キャンペーン」に賛同団体として参加し、2013 年 5～6 月の活動説明会「プラン・ラウンジ」で女の子の児童労働の問題について知る機会を計 2 回設け、参加者計 31 名に女の子の現状や、プランの取り組みなどを紹介した。

6) 今年度中に本財団が署名・賛同を呼びかけた、もしくは外部からの呼びかけに署名・賛同した提言や声明は以下の 5 件である。
- パキスタンの女子教育を応援する I am Malala　署名呼びかけ
- Raise Your Hand～世界の女の子のために手を上げよう！～　署名呼びかけ
- 国際ガールズ・デー推進ネットワーク　加盟呼びかけ
- 防災に関する子ども憲章への賛同（セーブ・ザ・チルドレン）
- ストップ！児童労働反対キャンペーン 2013 への賛同（児童労働ネットワーク）

３．開発教育



新しい開発教材
「Because I am a Girl」

1) 今年度は、「ジェンダー平等」をテーマとする開発教育教材を開発。支援者・教職者の方々などを中心に配布し、活用いただいた。また、自治体の男女協働参画センターや、ジェンダー研究者、大学教員などからも関心が寄せられ、本教材を使った講師派遣など、新たな連携が広がった。

2) 修学旅行生などによる事務局訪問（92 回 263 名）と、講師派遣（42 回 3,958 名）は、昨年度に比べ大幅に充実・拡大。実施には、体制を再構築した開発教育ボランティア「プラン・フレンズ」(14 名) が参加した。

3) プラン・ジャパンの学生グループ G-SChooL（ジー・スクール）は、有志 7 名が 2013 年 2 月 22 日～3 月 2 日にスタディツアーでインド北部ウッタルプラデシュ州ラックナウを訪問した。活動の視察や子どもたちやコミュニティの人々との交流を通じて貧富の差や児童労働、女性への差別の実態を目の当たりにし、帰国後に報告会を企画。現地の声を届け、ともに国際協力のあり方を考える機会として、トークイベント「～スタディツアーで見た今のインド、そしてこれからのインドを考える～」を 2013 年 6 月 22 日に開催した。


途上国の子どもたちの絵から
日本との違いを学ぶ
（夏休み企画より）

4) 恒例の夏休み企画では、世田谷ボランティア協会夏ボラ体験受け入れ（2012 年 8 月 6～8 日、8 名）のほか、夏休み子どもボランティア体験（同 8 月 9～10 日、小学生 7 名、中学生 8 名）、「途上国を学ぼう！夏休みワークショップ」（同 8 月 25 日、28 名）を企画・実施。プラン・フレンズと G-SChooL のメンバーが講師役を担うなど連携を多様化し、NGO らしい企画を進めた。

5) 昭和女子大学、明治学院大学、東京外国語大学、南山短期大学、早稲田大学からインターンを受入れ、活動にユースの視点を組み入れるとともに人材育成を行った。

6) 開発教育の効率化に向け、必要なシステム構築（教職者、関係者のリスト整備、ウェブサイト改訂など）を行った。

7) PII としてのジェンダー平等への取り組みの強化を受けて、2013 年 2 月に開催された研修に本財団職員を派遣。持ち帰った学びを活かして局内職員のトレーニングを行い、理解と意識の向上を図り、本財団におけるジェンダー主流化へ踏み出した。

Ⅲ．その他、組織・事業全体に資する活動および管理部門

本財団の事業全体に関わり、公益目的事業 1、2 の実行に必要な活動として行った主な活動は以下の通り。

1) PII の最高意思決定機関であるメンバーズ総会（2012 年 11 月、2013 年 6 月）と、同会付属の指名ガバナンス委員会（2012 年 11 月、2013 年 2 月、6 月）に、代議員として理事・評議員から 2 名を派遣。今年度は、将来の活動の方向性、全体としてのビジネスモデルの最適化、意思決定へのユースの参画などについての活発な議論が行われ、本財団代議員はこれらに積極的に参加するとともに、国際組織の活動や方向性に関する審議と決定に積極的に関わり、全体の発展に貢献した。
2) PII の会計監査委員会サブ・グループ会議（2013 年 1 月）、ナショナル・ディレクターズ会議（同 2 月、10 月）、「若者の非雇用問題」に関するアジア地域ネットワーク会議（同 5 月）などをはじめ、プログラム、コミュニケーション、その他テーマ別の会議など、各業務に有効な国際組織内の会議、検討に役職員が積極的に関わり、その成果を活かした業務遂行に努めた。また 2013 年 10 月には初めてのアジア地域フォーラムを本財団で開催。アジアの支援国事務局の理事長とナショナル・ディレクター、ARO 事務所長、PII 国際本部戦略担当が会し、域内における連携強化や将来像など、PII 全体の戦略におけるアジアの位置づけや方向性について議論を深めた。
3) 昨年度に実施した役職員による討議を踏まえ、全職員参加ワークショップなど初の試みを取り入れながら、年度前半に 2013～2015 年度中期事業計画を策定。コンサルティングの無償協力を受けながら、分析・検証をもとに方針、目標、戦略から進捗管理制度までを策定、導入する過程からも多くの学びを得た。
4) 業務効率化の柱として取り組んでいる基幹システムの開発では、現行システムに代わる新システムの設計を進め、次年度前半稼動の目処をつけた。また、これとは別に、企画・稟議やそれに基づく経理処理、報告などをオンラインで行うシステムを年度初に導入し、申請や決裁の大幅な迅速化、情報共有やデータ管理・分析の向上を実現した。
5) 戦略的な事業展開と人材育成の一環として、「海外派遣人材登録制度」を立ち上げ、短期・長期でプロジェクト担当として活動地域へ赴く人材の希望登録を 2013 年 1 月より開始。内部審査を通過した登録者に対しては経験者らを講師とするトレーニングを行い、派遣に資する能力・専門性向上に着手した。
6) 本財団専務理事が引き続き国際協力 NGO センター（以下、JANIC）副理事長、公益財団法人公益法人協会評議員、「動く→動かす」運営委員会議長として、また、NGO-JICA 協議会コーディネーターなどの役割も担い、業界への貢献に努めた。また、2013 年 4 月には災害支援に関わる能力強化プロジェクトの一環として米国で企画されたプログラムに JANIC 代表として招聘を受け、災害支援に対する知見を交換するとともに、米国における NGO ネットワークの 1 つであるインターアクション（InterAction）の年次総会にも出席し、多くの学びを持ち帰り関係者に還元した。

【事業報告の附属明細書】

2013 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上